

モンゴル国立医科学大学と日本モンゴル病院を訪問し、医療指導とセミナーを開催しました

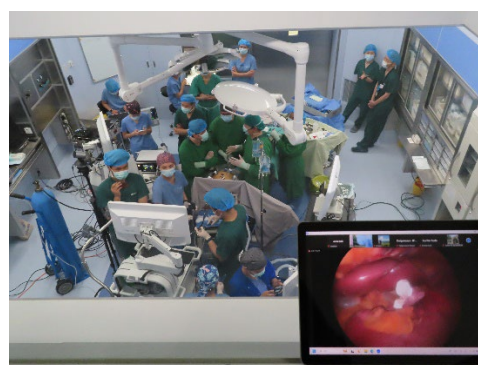
令和5年8月6日（日）～8月11日（金）、九州大学病院の内視鏡医・外科医・放射線医・病理医・腫瘍内科医・臨床工学技士が日本モンゴル病院を訪問し、視察と医療指導を行いました。この「モンゴル国における消化器疾患診療の人材育成」プロジェクトは、医療技術等国際展開推進事業として九州大学が実施しており、今年が2年目になります。

モンゴルの滞在期間中、外科医と内視鏡医は現地医師とともに手術や治療を行いました。日本モンゴル病院で初となる胃腫瘍に対する腹腔鏡内視鏡合同手術も実施し、その様子はインターネットを通じてモンゴル国内にライブ中継されました。病理医は診断の指導だけでなく検体作成の指南や講演なども行い、放射線科や腫瘍内科では患者データをもとにした活発な議論や指導を実施しました。臨床工学技師は手術や内視鏡で用いる医療機器の取扱いやエラー対応などの説明を行い、多くの現地スタッフが熱心にメモを取っていました。現地指導の最終日には胆膵領域のロボット手術、胃癌に対する化学療法、胃癌診断におけるCTの有用性について、当院の専門家によるセミナーも開催しました。

8月9日には中村病院長をはじめとする当院スタッフがモンゴル国立医科学大学を訪問し、学長や医学部長、附属病院長との会合が実現しました。交流の強化や遠隔医療教育の普及など、今後に向けた活発な意見交換を行い、大変有意義な時間となりました。



腹腔鏡内視鏡合同手術



合同手術のライブ中継



病理での実地指導の様子



臨床工学技士による内視鏡機器の取扱説明



外科での実地指導の様子



放射線医による実地指導の様子



モンゴル国立医科学大学での集合写真



日本モンゴル病院での集合写真